１７．酪農共同経営体における経営改善に向けた取り組み

豊肥振興局生産流通部畜産班
○仁田坂俊輔

１　背景

平成16年度に法人を設立、ロボット搾乳体系のフリーストール牛舎を新設して酪農経営を開始したが、ロボットの機能を十分に発揮できなかったことや疾病（乳房炎、蹄病等）が多発したこと等により乳量が伸び悩んだ。加えて、平成17年度に生産調整が開始されたことに伴って減産を強いられ、生産乳量を抑えるために制限給餌や強制乾乳を余儀なくされた。さらに、乳価の低迷、子牛価格の下落、飼料価格の高騰、修繕費の増加等の影響によりその後も厳しい経営が続いた。そこで、関係機関と連携して経営改善に向けた取り組みを行い、一定の成果が得られたので報告する。

２　取り組み

・関係機関と連携して毎月経営検討会を開催、月次計画に対する取組状況を進行管理
・酪農コンサルタントを招致して現地検討会を実施、問題解決に必要な課題の優先順位を整理
・蹄病の発症予防を検討した結果､削蹄師に依頼して毎月20～40頭の計画的な削蹄を実施、酪農家も削蹄技術を習得して随時削蹄や治療を実施
・夏期の乳量低下や乳房炎発症を防ぐために暑熱対策（ファン調整、屋根散水等）を実施
・自家育成牛を確保するために性判別精液を活用、計画的な交配を実施
・飼料費低減を図るために自給飼料（トウモロコシ、イタリアン）生産を拡大
・ロボット搾乳方式からアブレストパーラー方式に変更

３　活動の成果

・経営検討会による月次進行管理により、飼養管理の改善が着実に進展
・コンサルタントの意見を参考に課題を洗い出し、牛舎設備や牛群管理方法を改善
・毎月削蹄することで蹄病牛の早期治療や新たな発症を低減
・自家育成牛の確保や自給飼料生産によりコストを低減、運転資金を確保
・搾乳方式をアブレストに変更したことで搾乳時間が大幅に短縮され、牛と作業者の負担が軽減、発情観察や疾病の早期発見に時間を確保
・年間個体乳量は平成19年7,405kgから平成28年9,277kgに向上

４　課題

・飼養頭数増加や今後の雇用を視野に入れた作業行程の整理及びマニュアル化
・後継者の経営管理能力の向上